

分泌低下型マイボーム腺機能不全に対する LipiFlow の効果 -多施設共同研究-

有田 玲子¹⁾²⁾、森重 直行²⁾³⁾、前田 修司⁴⁾、前田 耕志⁴⁾、伊藤 耕三¹⁾
伊藤医院¹⁾、LIME 研究会²⁾、山口大³⁾、前田眼科医院⁴⁾

【目的】分泌低下型マイボーム腺機能不全 (MGD) はドライアイの主因であり加齢とともに患者数は増加する。MGD は治療に抵抗性が高い症例も多く、新しい治療法が望まれている。今回、私たちは、病院で行う Warming Compress として LipiFlow を施術し、効果を検討した。

【対象と方法】対象は MGD 患者 15 名 30 眼 (67.8 ± 11.6 歳、男 6 : 女 9)。方法は SPEED スコア (自覚症状)、油層厚 (LipiView)、眼瞼縁所見、涙液層破壊時間 (BUT)、角結膜上皮障害スコア、マイバムグレード (スリットランプ)、マイボスコア (マイボグラフィ)、シルマーテスト。検査は施行前、直後、以降 1ヵ月毎とした

【結果】平均観察期間 3.0ヵ月 (2-11ヵ月)、油層厚は施行直後 (p = 0.08) から改善傾向で、3ヵ月後まで改善した (p=0.003, p=0.003, p=0.01)。Plugging、マイバムは施行直後から 11ヵ月まで改善した (各 p < 0.001、各 p < 0.001) BUT は施行直後から 5ヵ月まで改善した (p < 0.001、p = 0.001、p = 0.001、p = 0.013、p = 0.001) これらの改善は、30眼中 25 眼で認められた。SPEED スコアは施行直後から 11 ヵ月後まで改善した (各 p < 0.001)。マイボスコア、角結膜上皮障害スコア、シルマーテストは有意な変化がなかった。効果が認められなかった 5 眼はマイボーム腺が高度に脱落していた。

【結論】LipiFlow は適切に MGD 患者を選べば施行直後から患者の自覚症状、他覚所見を改善させうると考えられた。

[利益相反 公表基準 : 該当] 有
筆頭演者 :【F】(TearScience)
[倫理審査 : 承認] 有
[IC : 取得] 有